|  |  |
| --- | --- |
| 会議の結果 | |
| 件　　　名 | 令和６年度田辺市社会教育委員会議　第４回定例会 |
| 日　　　時 | 令和６年11月28日（木曜日）　午後２時～午後３時40分 |
| 場　　　所 | 田辺市役所１階多目的ホール３ |
|  | ○社会教育委員  出席者11名：　尾崎委員、加藤委員、桐本委員、小山委員、坂本委員、砂野委員、  中根委員、西川委員、松場委員、宮本委員、柳川委員  欠席者２名：　九鬼委員、久保委員  ○事務局７名：　野田教育長、狼谷教育次長、那須生涯学習課長、大西生涯学習課参事、  下岡生涯学習推進係長、中野公民館係主事、小出生涯学習推進係主査 |

１．開会　教育長挨拶

２．議長挨拶

３．説明事項・報告事項

（１）第67回関西実業団対抗駅伝競走大会の結果について

（２）第51回新春田辺長距離走大会について

（３）第３回田辺市民駅伝交流大会～弁慶ＲＵＮ～について

（４）紀南文化会館の指定管理者の指定について

（５）田辺市文化財の新規指定等について

（６）文化振興課行事予定について

（７）南方熊楠顕彰館行事予定について

以上の項目について、事務局より一括して説明及び報告を行った。

【質疑応答・主な意見】

　　特になし。

４．協議

（１）人材育成事業企画部会について

第４回及び第５回人材育成事業企画部会において議論した内容について事務局より説明を行い、各資料に基づき協議を行った。

その結果、東陽中学校出張講座については、アンケートの体裁を修正することとし、一般公開講座については、講座のタイトルや広報用の事業概要作成に向けたキーワードを集約したほか、次回の人材育成事業企画部会においてチラシ案を固める方向性を確認した。

【質疑応答・主な意見】

田辺高校出張講座の感想

Ａ委員：講演は会場の都合上、声が聞き取りにくかった。まち歩きでは、参加した生徒には響いたものがあると感じられたので、いい機会だったと思う。自分たちも一緒に歩かせてもらい、まちが好きになった。

Ｂ委員：自分の将来をどう組み立てていくかということの１つの示唆にはなったと思うが、２年生や３年生にも聞いてもらえたらよかったと思う。１年生はこれから将来のことを考えていくタイミングなので、どのように響いたのかなというのは、少し期待を込めて、示唆に富むような話だったんじゃないかと感じている。もっとまち歩きの参加者が多くてもよかったと思うが、生徒の皆さんは忙しかったのかなと感じた。

副議長：音響上、聞き取りづらく、少し心配だったが、感想を読むとすごく響いていることが読み取れたので、我々が聞いている以上に、生徒の皆さんはしっかりと聞いてもらえたんだと安心した。まち歩きに参加した生徒がいろいろと聞いてくれて、今まで目にしていたけど新しい気づきがあった、その見方を学ぶことができたということを、最後の感想で話してくれていて、甲斐さんもとても喜んでいた。この日のことが、何かのきっかけになって、また話できたらいいなといったことも甲斐さんがおっしゃっていたので、どちらにとっても良い場になったと思った。

　　東陽中学校出張講座について

Ｃ委員：実際に田辺市役所で働いている方から、市民のために働いているという視点や、なぜ戻ってきて市で働いているのかといったこと、また、実際に働く中で感じる田辺市の良さみたいな部分も視点に含めて語っていただけたら、子供たちにとって、これからどうやっていきたいかというイメージが膨らんでいくと思うので、是非お願いしたい。

副議長：アンケートに関して、一人目、二人目のチェックを入れるようになっているが、記述式の項目④～⑥で前半・後半含めた形で書いてしまうような気がするので、もう少し分かりやすくできればと思う。

　　一般公開講座について

　　　　Ｄ委員：今日は、周知に向けた講座のタイトルと概要を考えるということでよいか。今回は、あくまで社会教育の20年を迎えるということで、対象となる人たちがある程度見えてくるというのであれば、オーソドックスに「社会教育のこれまで」とか「社会教育を通じた人づくり20年を考える・語る」とかそういうのでいいと思う。前回が、しあさってという少しぶっ飛んだタイトルで、これまでとは異なる層の人たちにそういう考え方もできるのかと示唆することを目指したタイトルだったので、少しわかりにくさもあったんだろうなと思う。来場者の顔を見た印象としてはそう感じた。しかし、今回はあくまでも市長にがっつり語ってもらうということで、我々も20年をしっかり語るっていうことであればストレートな表現で広報するのがいいと思う。社会教育と言わない社会教育をコンセプトにしてしまうと、たなべ未来創造塾など、違うアプローチの人づくり、市長の得意分野に流れると思うので、今回は社会教育メインで良いと思っている。

副議長：我々の想いが伝わる内容であればよい。

議長：「市長」と「人づくり」という言葉は入れたい。

副議長：「市長が語る、社会教育のこれまでとこれから」というのはどうか。

Ｄ委員：市長の講演タイトルはチラシ配布に間に合わせることは可能か。

事務局：原稿提出のタイミングには間に合わないが、市長との打ち合わせのあたりであれば、原稿確認の中で修正ができるので、その時点で確定した情報であれば追加は可能。

Ｄ委員：打ち合わせのタイミングで市長がタイトルを出せるかどうか。ある程度話す内容を固めてからタイトルを決めたいと考える人なら、おそらく打ち合わせが終わってから話すことを固め、そこからタイトルを決めることになると思うが、そうなれば仮題でテーマを掲載するか、そもそも掲載せずに広報するかどちらかになる。

議長：今出ているのが、「真砂市長が語る、社会教育のこれまでとこれから」。

副議長：サブタイトルで、「社会教育を通じた人づくりの20年を振り返り、未来を考える。」というのはどうか。市長が語ることを前面に出したい。

Ｄ委員：これまでとこれからより、「過去、現在、未来」がよいのではないか。振り返り、未来を考えるということは概要で説明すれば伝わると思うので、サブタイトルはシンプルに「社会教育を通じた人づくり」に留め、概要でカバーしつつ、パネルディスカッションについてもテーマは「社会教育を通じた人づくり」でよいと市長と話しながら考えていた。基調講演のテーマが間に合わない場合、パネルディスカッションのテーマは出さず、間に合う場合は両方出すということでお願いしたい。概要には、社会教育委員20年の歩みというキーワードを含めてもらえばよいと思う。おそらく、社会教育といっても市民はピンとこないかもしれないので、概要には公民館という言葉も併記したほうがいいかもしれない。

議長：次の部会はいつの予定か。

事務局：その他項目で連絡予定だが、次回の部会は12月25日（水）を予定している。

Ｅ委員：これまでの議論で公民館も変容してきているといった話が出ていたと思うが、言葉に出すか出さないかは別として、公民館の在り様が変わってきていることを、キーワードとして出しておいても良いのではないか。そこがあるから、先日の面会で市長からも、公民館は昔から期待されているが、なかなか集まらないみたいな話が出てくるのだと思う。

議長：それぞれの活動の中で気になることをキーワードとして挙げていただければ、次の部会でじっくりと話ができると思うので、あれば挙げてもらいたい。

Ｆ委員：最終的にはチラシのいろんなところに真砂市長の名前が出てくると思うし、田辺で市長と言えば田辺市長のことなので、タイトルは「市長が語る」と短くしても良いと思う。

Ｄ委員：Ｅ先生のおっしゃった社会教育の変化というか時代を捉えたという話を概要に入れるかどうかという話に関して、今、国の審議会の議事録を確認してみたが、まちづくりと社会教育を越えていけみたいな話になっている。昔は、社会教育は社会教育みたいな話があったが、今はどんどん社会教育とまちづくりが接続して、社会教育と首長部局が接続するという状況にあり、これからは地域のウェルビーイングにどう貢献するかという大きな話が出てきている。その議論を今回の講座で引き取るかどうかは別として、それぐらい社会教育や公民会に期待されていることがあるということは入れておきたい。

副議長：期待というより可能性。社会教育や公民館の可能性。どう生かすかは我々市民側の話。

Ｄ委員：小規模多機能自治を社会教育委員側から仕掛けていったということもあるが、これから田辺市を含め、どこの自治体も、文科省や総務省等国の動きも含めて、これからの10年間で大きなうねりがくる気がしている。首長部局への移管を含め、総合教育会議制度が入って、教育委員会制度改革もあって、一定距離が近づきつつあることをどう考えるのかというのは、次の議論になりそうな気がする。そういう意味でも、どのような立場をとるか、それは個人、首長、事務局、それぞれの考えや立場があっていいが、一つ言えるのは現代的可能性という観点で言うと、変わらないためには変わり続ける必要があるというWe must change to remain the sameという言葉がある。社会教育であり続けるためには変わり続けなければいけないというようなことが、これから問われてくる気がしている。そこまで事細かに書く必要はないにしても、そうした未来がいずれやってきて、今までの公民館がそのままあって公民館主事が配置されていて、単に言えばやってくれるという世界ではないことだけは伝えておきたい。今、これまでの20年を振り返ってみても徐々に変わってるのと同様に、徐々に変わってくると思う。コミュニティスクール制度も、以前はなかった。

Ｅ委員：公民館に対する想いが高齢の方と若い方で異なる。今はその過渡期だと感じている。先ほどの話にもあったように変わっていくと思うが、公民館が本当に大事だと感じている人たちがまだ残っている間に、次につなげていくことが必要だと思う。このままだと、あと少しでこれまでやってきた公民館の活動が消えてしまうことになる。

Ｄ委員：一方で、西山さんみたいな人もいる。それは、彼らが現代的に社会教育を捉え直しているから、可能性を感じたんだと思う。

Ｅ委員：ただ、それは今までの公民館や社会教育とちょっと違って、どのように生かすか、どのように世の中で上手く使うかという視線では見ているが、過去の公民館や地元をどうしていくかという視点ではないと本を読んでいても感じる。

Ａ委員：委員になって２年目になるが、いろんなところに参加させてもらって、本当にいろいろ変わっていってるんだろうなと感じる。昔は、大人が自分たちでやってきたことに子供たちの意見をあまり反映させなかったと思うが、今は子供たちがいてくれないと動かないっていうのは、変わってきているところかと思う。変わる社会教育、市制20周年の節目で見えるもの、みたいな感じで、今どんどん変わっていること、そして市制20周年、真砂市長の20年、そこで、今見えているものは何かという内容にしてはどうか。今、見えているものは何かという語りかけをして、基調講演やパネルディスカッションを聴講した中から自分で見つけてもらいたいという概要にしてもよいのではないかと議論を聞きながら思った。

Ｇ委員：公民館の活動に子供を呼んでくるという当たり前のシステムだが、子供を呼ぶことで、若い人に公民館の使い方を知ってもらう、当たり前にここへ出入りしてもらうということができていると考えたら、子供が主体で動いているんだと最近思うようになった。公民館活動の中で年配の人やサークル活動をしていた人たちがどんどんやめていって、廃れてきていると感じている。今年も２月に大塔フェスタをするが、作品展示もスペースが空いてきていて、地域外からでも関わりのある人に声を掛けて展示してもらうとかそんなことをしている。地域内を見ても、公民館の活動をしているのは年配の方がほとんどだと思う。だから、子どもたちに公民館って色んな利用の仕方ができるというのを見てもらう、当たり前に入ってきてもらえるようにするのが、今の自分のボランティア活動だと最近思っている。子供や若い人は、どんどん減っていくが、公民館が大事な場所で、みんなで集まれる場所ということを、遊びを通じて教えていくことが大切。

議長：子供のときから公民館活動に関わるということがキーワードの一つということ。

Ｇ委員：加えて、事務局の方にも積極的に一緒に活動に関わってもらうことが大切だと感じている。自分たちは当たり前にしているが、ボランティアの方に来てくださいと言うだけではなくて、一緒に活動し、事務局の方に先生として関わってもらうようにしている。すると、子どもたちは事務局も先生として認識してくれるので、子供たちが公民館に来やすくて、事務局に声を掛けやすいという環境が出来上がる。

議長：どのように伝えるのがよいかＢ委員に聞いてみたい。

Ｂ委員：非常に難しい。というのは、最初に出た案でほとんど問題ないと思っているので、そこにプラスαで幅を持たせるとか、将来性や可能性のあるビジョンをもってくるとなると、もう本当に受け手の判断に委ねてしまうような域になってくると思う。一方、どういう客層をイメージするかだが、やはり社会教育や公民館活動に関わる人、関わらない人の差がものすごく激しいので、結論としては落としどころもないが、私の感覚で言うと、本当はみんなに知ってもらいたいのになかなか広がらないとか、いろんなところで熱心に活動してる人が高齢化していて後継者がいないという状況はよく目にするので、受け皿自体が変わってきていて、それに対してシステムも変えなきゃいけないというのが事実なんだと思うが、それをなかなかパッと言いたくても言えない、良い言葉がないというのが私の今の認識で、そういうことで非常に難しいと感じている。

事務局：実施要綱の趣旨をもう少しかみ砕いて柔らかく表現したらいいんじゃないかというところも含めて、ご意見いただけたのかと自分なりに解釈している。市長に皆さんからお話いただいたときも要綱記載の趣旨に加えて、語っていただきたいこととして、資料に書いてることと、皆さんから直接お伝えいただいたことがあってというところなので、先ほどいただいたこのタイトルはほぼ確定ということで大きく掲げさせていただき、チラシ等に掲載する趣旨については、先ほど３つのキーワードをいただいたが、それらを踏まえて講座の内容で示してる趣旨を柔らかく表現するというところで一度組み立ててみるという方向性でどうか。

議長：よいと思う。方向性についての話はできているようでできてないが、それは次の部会で話できればと思う。

５．その他

（１）生涯学習センターの今後について

　・令和７年度から、生涯学習センター（市民総合センター内）を廃止し、貸館機能については市民活動センターが引き継いで行っていくことを事務局から報告した。

（２）第６回人材育成事業企画部会の日程について

　日時：令和６年12月25日（水）午前10時～

　場所：田辺市役所５階教育委員会室

（３）一般公開講座に係る市長との事前打ち合わせについて

　日時：令和７年１月17日（金）午前10時～

　場所：田辺市役所５階市長室

６．閉会　副議長挨拶